



実施計画の重点施策である15施策の中から主な事業の成果を紹介します。

1. 健康づくりの推進

●自転車活用推進事業（決算額 225 万円）

日常生活における自転車の健康効果を3年かけて検証する「自転車を活用した健康づくり実証実験」を松本大学に委託しました。実証実験とサイクリング指導を兼ねた教室を7回開催し、35人が参加。体力測定結果では、前年度に引き続き体重や血圧等の改善が見られました。



実証実験を兼ねたサイクリング教室

2. 出産・子育て支援の充実

●里山再生計画推進事業（決算額 419 万円）

市里山再生計画（第2次）の初年度となり、認定こども園等を対象に松枯れ材を活用した積木や、紙芝居をプレゼントする新たな取り組み「あづみの積木キャラバン」を開始しました。



燕岳テント場

3. 観光の振興

●燕岳テント場トイレ推進事業（決算額 143 万円）

自然資源の保全と施設の快適化を図るため、燕岳の稜線にある公衆トイレを環境配慮型のトイレに改修するための詳細設計を行いました。



各戸配布した防災マップ

4. 防災体制の充実

●防災啓発事業（決算額 635 万円）

国・県の管理河川の浸水想定区域の見直しに伴い、平成28年3月に発行した防災マップを全面改訂し、令和3年3月に全戸配布を行いました。



空家相談会

5. 良質な住環境の整備

●空家対策等事業（決算額 1,539 万円）

空家の予防や保全、管理不全空家の指導、予防啓発としての講演会、出前講座、相談会を開催するとともに、空家パンフレットを作成配布することで、市民の皆さんと課題共有を図りました。また、空家対策補助金の活用を促し、その利活用と解体による宅地の再利用や環境保全を図りました。



小学校に導入した電子黒板

6. 学校教育の充実

●小学校情報教育推進事業（決算額 2 億 836 万円）

すべての小学校に1人1台の端末と電子黒板の導入を行うことで、ICT機器を活用した分かりやすい授業の推進と教職員の業務にかかわる負担軽減を図り、子どもたちが高度情報化の社会に適応できるよう環境整備をしました。（中学校の1人1台端末導入は、中学校情報教育推進事業 決算額 1 億 5,741 万円）

7. スポーツ活動の充実

●新総合体育館建設事業（決算額 6 億 8,736 万円）

技術提案型総合評価落札方式による一般競争入札により「安曇野市新総合体育館建設工事」が本格的に始まり、基礎工事や鉄骨の組み立て、屋根の取り付け工事を進めました。また、監理業務についても受注者が決定し業務を行いました。



新体育館の完成外観図

※万円未満四捨五入

市の財政を家計に置き換えてみました

金額が大きい一般会計決算額を身近に感じていただくため、年収500万円の家庭に置き換えてみると…。

収入		支出	
項目	決算額	項目	決算額
給料や諸手当 (市税・地方交付税など)	230 万円	食費 (人件費)	58 万円
パート収入 (使用料および手数料など)	39 万円	医療費 (扶助費)	49 万円
親からの援助 (国県支出金)	161 万円	生活必需品や光熱水費 (物件費・補助費)	230 万円
ローンの借り入れ (市債)	44 万円	車などの修繕費 (維持補修費)	1 万円
貯金の取り崩し (繰入金)	19 万円	子どもへの仕送り (繰出金)	35 万円
昨年度からの繰越金 (繰越金)	7 万円	ローンの返済 (公債費)	45 万円
合計	500 万円	家の増改築費 (普通建設事業費・災害復旧費)	39 万円
		親戚への貸付金 (出資金等)	21 万円
		貯金など (積立金・来年度への繰越金)	14 万円
		合計	492 万円

差し引き残高（繰越金）8 万円

収入（500 万円）から支出（492 万円）を差し引いた残高は、令和3年度に繰り越して使用するよ。

一人当たりの借金は？

市債の令和2年度末現在高（企業会計含む）は、737 億 7,000 万円。これに対する普通交付税算入見込額（企業会計含む）は、512 億 8,300 万円となることから、市の実質的負担は224 億 8,700 万円となります。

市の借金を一世帯・一人当たりに換算すると…

- 一世帯当たり 55 万 7,064 円
- 一人当たり 23 万 2,057 円

※ 令和3年4月1日現在の世帯数および人口から算定

